

# 弓道いばらき

平成8年10月第19号

発行所 那珂郡東海村  
村松 1292-9  
茨城県弓道連盟  
電話 (029-282-3580)

## “所感”



新名誉会長 矢吹 三郎

三、適当に妥協した目先の弓で満足してはいないか。

目先の目標、当りだけにこだわり、妥協した小細工で、日本弓道の正しい射技研修を忘れていたのではなからうか。

右の三点を反省し、茨城弓道連盟の為に、明日とは言はず今日からその気で頑張らましよう。

## 技・体・心

会長 関 宗長



アトラクタのオリンピックで、お家芸の柔道でメダル・ラッシュを期待した柔道ファンの願いは今回も大きく破られた。

苦杯をなめた試合の評価では、技術よりも、パワーやスタミナ、意気込み、粘り、気力、根性など日本選手にあると思われた積極性や攻撃精神が問われた。

一瞬のスキをつかれたり、投げわざの逆をとられた不意もあった。

逆をとられた不意もあった。

田村亮子選手さえも、積極的な相手の攻めに金を失った感じに私には見えた。こんな中で、中村選手の根性、選手の実力以上に闘ったファイトによる金獲得に心を打たれた。改めて、技術は勿論必要であるが、体力、精神力の必要性を痛感させられた。

私は、ゴルフの飛距離が減ったので、種々研究してみた。その原因は技術と体力に負うところが大きい、最近、納得できるショットに戻った。それは、あるプロが「私は、呼吸のリズムで球を打っている。スウィングの始動と呼吸・リズムを合せる。バックスウィングで吸い、トップからダウンで吐きにゆく。フィニッシュで最も大きく吐く。」と。「柔道・剣道の気合で「イヤーツ」と声を出す。息を出すのと同じですよ。」と。また、その呼吸は、実は、精神の安定の基本だともいわれた。

呼吸は、まさに心気あらわれだ。私はこの二つの事柄から、武道もスポーツもその基本は共通するものだと今更のよう思う。

標題に、技・体・心と並べたのは、まず、技術「弓では射技」が十分でなければならぬ。それを支える体力、体配があり、競射になれば、強い精神力が射を支配する。当てる弓よりは、当たる弓。正射正中を具現するために、改めて、技・体・心について自らに問うてみたい。

この春の代議員会で、図らずも副会長にご推挙頂き、光栄に存じます。微力ではありますが、県弓道連盟のために、少しでもお役にたてればと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。又、理事長在任中はいへんお世話になりました。時機はずれではありますが、改めて御礼申し上げる次第であります。

「弓道人口の把握と登録会員増加の推進」これは関東連盟会長が、本年度の事

## 弓道人口の減少に歯止めを

新副会長 関根 村夫



先日の関東選手権大会で、張替教士が見事技能優秀賞に輝き、村山五段が有段者の部で準優勝。本県チームは、二位の成績を納めることが出来た。みんな頑張っ、良い成績をあげたが、本県選手一人一人の力ももっとある筈だった。審査員各位とも、私と同じ感じで、首をかしげた。これからは、更に頑張ろう。

業方針として各専門部に指示した項目のうち、総務部関係の第一に掲げた指針です。又五月の京都における全弓連評議員会での鴨川会長の挨拶に「高齢者の増加と、人口絶対数の減少による弓道人口の減少が懸念される」との言葉がありました。更に本年の関東地区北部指導者講習会でも研究課題が「近年、弓道人口が減少しつつある現状の中で、底辺拡大を図るにはどのような方策を樹立したらよいか具体的な例をあげて述べよ」というものでした。すでに始まっている弓道人口の減少に歯止めをかけるにはどうすればよいのか、重い課題です。

全弓連発表による平成七年度の登録数は十二万六千人、前年比五千人減少のことですがそれは高校生の減少によるものだとのことです。なん十万、なん百万の会員を持つ競技団体ならたいた数ではないが、たかだか十三万程度の登録人口での五千人は大きい。それも、なにかの理由による一時的減少なら致し方ないが、少子時代の到来による影響であるところに深刻さがあります。会員減少に危機感を募らせているのは弓道ばかりではなく、柔道、剣道、少林寺拳法など年少会員を多く抱える団体ほどダメージが大きいようです。特に、高校スポーツ人口の減少が、武道を含むスポーツ全般に及ぶもので

あり、それは全国的な現象であること、それは全国的な現象であること、それを示していると思えます。茨城での登録状況はどうでしょうか。中学・高校を除く一般では、茨城国体終了後の昭和五十年で約六百人。十年後の昭和六十年で約千人。平成三年、千二百人台に乗り、平成七年までの推移は千二百人前後。本年度八月現在で六百六十人程度。未登録者もあり、年度末までに前年度並に届くかどうか。審査の受審者数の減少などからみて、今後の登録数が懸念されるどころです。スポーツ人口減少の要因が人口の自然減である以上、その波をかぶるのは必定でしょう。学校弓道は別として、どのようにして底辺拡大を図ればよいのか。起死回生の妙案はないと思えますが、私は弓道教室開催の推進を提唱したい。「今更なに言うか」と思われるかもしれないが、弓道教室開催の効果は大きいし、弓道人口の底辺拡大、大きく貢献してきたと思えます。弓道は、年齢、性別、体力に左右されない「生涯スポーツ」に最も適した武道なからです。中高年齢者、婦人も当然ターゲットとすべく、教室を継続して開講している支部の構成をみると、中高年齢者や女性が多いことがわかります。弓道教室終了後の定着率は必ずしもよいとは言えないが、継続して開講している支部では、例外なく県連盟登

録会員が増えております。教室を開催していない支部でも、施設状況や指導者の数などから開催可能と思われるところがかかりあります。開催している支部、開催可能な支部を含めて、計三十近い教室が毎年開催されれば、当面登録会員の減少を回避できるだけでなく、増加に転ずることも可能ではないでしょうか。

ところで冒頭に掲げた関東連盟会長の指針は「弓道人口の把握と登録会員増加の推進」でした。「○○会」「○○弓道会」等の名称の道場会員と、県連盟登録会員数が著しく違っているところがあるように思います。ある支部では登録会員は道場会員の半数でした。さまざまな理由があつてのことでしょうが、折角同じ道を志した仲間です。一人でも多く県連盟会員として登録されるよう勸奨願います。

近年弓道教室の受講者が減少しております。十年〜十五年の長い歴史のある教室ほどその傾向が強いように思えます。弓道人口の拡大に最も効果のある教室の表情がこれでは先が思いやられます。開催可能のところは是非開催に踏み切ってください、弓道人口の拡大のために皆様の英知を執行部にお寄せ下さるようお願い申しあげまして就任のご挨拶に代えます。

### 事務局として想う

副会長 木村喜久雄  
新理事長



会員の皆さんには、口頭より事務局に対し、叱咤激励のお言葉をかけ頂き感謝申し上げます。

皆さんは弓道練成のためには、多くの仲間と共に切磋琢磨することがよく、弓道連盟への加入は、その意味で意義あることであります。しかし、事務局がどんなことで皆さんのお役に立っているか、ご存じでしょうか。連盟規約第四条に定められている弓道情報の提供、審査会の開催、弓道大会の開催、講習会の開催、関連の他団体との相互連絡等の事業が円滑に展開できるように、専門部門の調整をし、それぞれの専門部に業務分担をお願いし、連盟として最大限の力が発揮できるように推進しているものであります。その中の留意点は(一)弓道人口が減少しないこと、(二)民主的に運営をすること、(三)それぞれの立場で責任をキチンと果たせるようにすること、(四)建設的な志向をもつこと、等であり、関係者にもお願いしていると

るであります。しかし、連盟全体をみると、「弓道界の発展は、時代の変遷に伴い、民主的に改革された運営でなければならぬ」と提唱されていることに、どれだけの方が理解しているのでしょうか、と想うことがあり、また責任を果たすことなく、声だけ大きい人など、信頼関係の失墜に気落ちすることがあり、これで弓道人としてよいのであるうかと感ずることがあります。

古くは、弓道段位の高低で組織上の地位が決められていた感でしたが、今や弓道は若い人たちの数多い入門に期待はもせず、中年以上の方々の入門が多くを占める傾向から、生涯学習の具としての弓道であること云々も過言ではないでしょう。この現況から申し、段位の高低で組織運営に対する発言の高低があつては、人口増を考へる際に問題であります。

射技の評価の高い人は技の指導を担い、組織運営はこれに叶う人と分離し、総体的に協同でなければ弓道界の発展はないと考へるが如何でありましょう。勿論、技と人が重複することは最も歓迎することであるし、そうであるべく弓道の修練に励むことが、われらの目標であります。人を如何にキズつけず、自分も弓を楽しまたい、こんな心境のこの頃です。



## 弓道人口の低下について

新指導部長 明間 勲



近年武道人口が減少しているのは茨城県だけではなく。全国各県が課題として取り上げている。

先日、関東北部指導者講習会で、「近年弓道人口が減少しつつある現状のなかで底辺拡大を図るにはどのような方策を樹立したら良いか」についての課題発表があった。その中で減少の理由として

- 一、弓を引く時間が取れない。
  - 二、弓具の不足
  - 三、弓道場の不足
  - 四、指導者の不足
- 等々が発表されていた。

次弓連の平成七年度会員数は、減少の傾向にある。比較的新しい支部の会員数は伸びているものの、全体的には学生、一般会員共に少なくなっているようである。また、初心者を教える指導者が不足している。

支部や会の運営方法を工夫する必要があるのでないだろうか。

取手支部では、底辺の拡大のため次のような運営をしている。

稽古日は道場を団体で借用し、稽古日を決め、定期的に行うことで、仲間同志でも互いに指導ができるようになっている。さらに、他支部の弓友も、希望があれば一緒に練習できる。

このように会員が一同に会し、また他弓友と共に稽古することにより、指導者の確保もされ、新鮮で活発な親睦交流もできる。支部活性化の意味では大会、審査には一人でも多く参加するよう声をかけあうようにしている。

また、大会、審査の後は反省会を行い会員の親睦を図る等々。いま取手支部は、会員増加の傾向にある。

さて、指導部からの県連会員への連絡です。今年から県連総会で講習会に

ついての取扱が、つぎのように決まり承認されました。

県外審査を受審するものは県連主催の講習会を年2回以上受講するようにということ。県内審査に於いても考慮の対象となります。また、受講に際しては、受講料を納めることになりました。同時に受講修了証書も交付されます。

受講料に関しては当初、受講者が減少が懸念されたところです。しかし、年度最初の講習会が八月末に実施され、

二四六名と予想以上の受講者がありました。その後の講習会も予想以上の繁栄を得ています。好ましい限りです。

県連主催講習会の目指すところは県連会員の技量向上のためばかりでなく、各支部指導者の育成も含み、底辺拡大のための力となるよう大きな期待をかけているものであります。指導部として受講者の意欲的な受講をさらに望んでおるところであります。

## 一私の弓道入門

社会人となり、工場内を散歩していたら弓道場で男性が一人的張りをしていた。「君も弓を引くのか」

「いや散歩をしているだけです」

「弓を引くなら夕方来たら良い」

とのことでその時の仲間と二人、業後弓道場に足を向けた。その時四、五名が弓を引いていた。中に入れとやさしく声をかけられ弓の話がされたが、その時は理解できずに帰った。

その後、毎日道場に通うこととなり

巻藁で丁寧に指導していただいた。

一週間ほど後、道場へ行かなかったら、

「昨日は道場へ来なかったね」

と声をかけられ、私達を待っていてくれたんだと思い、その後は毎日道場へ通うことにした。

毎日、道場で待っていてくれた指導者に巡り会ったため、今こうして弓道を楽しむことができ、この感謝の気持ちを忘れたことはない。

## 師より弟子に

新審査部長 介川 達



この度、審査部を担当することになりました。担当して、半年を迎えよう

としておりますが、今日まで先輩の皆様、御指導と部員及び会員諸氏の協力により無事役目を果たしつつあります。これまで審査部を担当して来られた方々の御苦労と御協力の結果、組織が整備され運営しやくなっていることに、心から感謝の意を表すると共に、更に組織の充実と受審者の増加を願う者であります。

どの様な習い物でもそうでありましようが、自分自身のレベルと向上の度合いを計る尺度としてぜひ昇段受審をおすすめ致します。昇段昇格をして上位になってもけっして人間が急に立派になつたりえらくなるものではありませんが、その分、新人や会員に対する指導をする役目が出来て自分を磨く場が広がることは幸せなことと思えます。

私の経験から云ってもやはり上を目指すと、人間完成を目指す仲間達の間、ゆきたいものです。

性にもふれ、物の見方まで変わり良き友に恵まれ人生が豊かになります。

弓道教本第一巻に述べてある宇野要三郎範士の四つの理念の一つである「人間完成の必要」は、弓道を学びつつ人格形成を図っていく上でのチェック機関は弓道の審査会であり、受審する姿勢であると思えます。

私は昭和34年より職場（日本原子力研究所）弓道部の一員として弓を手に致しました。初めは、日立市より毎週指導に通って下さった元県連盟副会長の大江宏一教士より基本の精神を教えられました。その後矢吹範士より弓道と人生全般を教育されたように思います。御陰様で今日まで、弓と共に歩んで

来ることが出来ました。実業団弓道の組織の中で育った私は、全日本実業団全日本勤労者、官公庁の各大会に数多く参加することが出来ました。そして

多くの良き友人が出来、楽しい思い出が残りました。県弓連では中野範士はじめ多くの先生方の指導や弓についてのお話を聞く機会に恵まれ、今では私の宝物として諸先生方との対話が思い出されます。教えられたことは伝えなくてはならないと思つて日々実行している私です。

目標を設定し日々たゆまぬ努力をして、人間完成を目指して共に頑張つて

## 茨城県弓道連盟各種大会結果(平成6,7年度)

## 平成6年度

月日	射会名	表彰	第1位	第2位	第3位	最高得点者
4/17	春季大会	団体個人 男子個人 女子個人 称号受有者 団体優秀 個人優秀	那珂湊C 平戸信行(那珂湊) 磯野光代(那珂湊) 久松正己(竜ヶ崎) 那珂湊C 助川末広(土浦)	日製多賀 鈴木弘二(日製多賀) 磯部仁予(石岡) 張替謙一(三和) 水戸B 石井誠(那珂湊)	那珂湊B 永吉 努(八郷) 大内美子(日製日立) 広水千加代(友部) 石岡D 今村好男(茨大職)	
4/17	親善大会 県武道館	一般 称号受有者	平戸信行(那珂湊) 久松正己(竜ヶ崎)	鈴木弘二(日製多賀) 張替謙一(三和)	小堀裕司(那珂湊) 廣水千加代(友部)	
4/24	遠の大会	男子の部 女子の部	安藤延典(牛久) 市毛道子(水戸)	松尾牧則(清真女短) 磯野光代(那珂湊)	平戸信行(那珂湊) 好田道子(藤代)	
6/26	県民総体	成年男子 成年女子 称号受有者	平戸信行(那珂湊) 磯野光代(那珂湊) 松尾牧則(清真女短)	諸橋 昭(波崎) 寺門奈美(那珂湊) 手塚 栄(勝田)	横田和夫(取手) 鬼本亨子(日製日立) 川瀬政人(神栖)	
7/31	県選手権 大会	3段以下 4段以上 称号受有者	渡辺晴子(新利根) 高木 勉(藤代) 川瀬政人(神栖)	小堀裕司(ひたちなか) 前野秀明(ひたちなか) 小泉民男(原研東海)	長谷川淳子(水戸) 枝並正容(神栖) 張替謙一(三和)	桜井 聡(那珂) 吉田正子(石岡) 久保田清(藤代)
9/18	第十八回 中野杯	成年男子 成年女子 称号受有者	小武内明(神栖) 大津知美(常磐大) 久保田清(藤代)	米山良美(下館) 大島加代子(取手) 橋本真也(原研東海)	池田秀臣(石岡) 磯部仁予(石岡) 沢田恒弥(土浦)	
10/16	支部対抗		八郷	那珂湊	勝田B 石岡A	

## 平成7年度

月日	射会名	表彰	第1位	第2位	第3位	最高得点者
4/16	春季大会	団体個人 男子個人 女子個人 称号受有者 団体優秀 個人優秀	ひたちなかC 平戸信行(ひたちなか) 松山晴美(水戸) 松尾牧則(清真女短) 原研東海B 平戸信行(ひたちなか)	千代田B 川又正昭(茨大教職員) 大内美子(日製日立) 川瀬政人(神栖) ひたちなかC 松山晴美(水戸)	原研東海B 星 喜進(土浦) 大島加代子(取手) 久松正己(竜ヶ崎) 神栖C 沓掛忠三(原研東海)	
4/16	親善大会 県武道館	一般 称号受有者	平戸信行(ひたちなか) 松尾牧則(清真女短)	川又正昭(茨大教職員) 川瀬政人(神栖)	松山晴美(水戸) 久松正己(竜ヶ崎)	
6/25	県民総体	成年男子 成年女子 称号受有者	臼井秀利(友部) 照井ひさ(水戸) 沢田恒弥(土浦)	相巢博之(東海村役場) 萩野谷綾子(水戸) 横田和夫(取手)	村山久行(日立電線) 館 恵子(千代田) 久松正己(竜ヶ崎)	
7/16	県選手権 大会	3段以下 4段以上 称号受有者	小堀裕司(ひたちなか) 飯岡富男(茨城町) 市毛道子(水戸)	高橋昌子(八郷) 桜井 聡(ひたちなか) 小泉民男(原研東海)	岡戸栄子(友部) 郡司武満(日立P.M) 谷山敦子(阿見)	小堀裕司(ひたちなか) 萩谷好浩(ひたちなか) 橋本真也(原研東海)
7/23	遠の大会	男子の部 女子の部	石井 誠(ひたちなか) 中川裕恵(筑波大)	平戸信行(ひたちなか) 松山晴美(水戸)	小泉民男(原研東海) 細江美穂(筑波大)	
9/17	第十九回 中野杯	成年男子 成年女子 称号受有者	広木 豊(東海村) 小室セイ子(石岡) 根本備哉(日製日立)	小堀裕司(ひたちなか) 石井幸子(水戸) 木村喜久雄(東海村)	沓掛忠三(原研東海) 大内美子(日製日立) 吉田 智(石岡)	
10/1	支部対抗		茨大教職員	日立電線	日立化成 ひたちなかA	



事務局だより

「講習会について」

平成八年度実行予算削減を目ざし、諸経費の縮小を関係部署にお願いし、皆さんにもご協力頂いてきたところであり、その一つに今年度から講習会を有料で受講頂くようになったこともその表れであります。有料制であることは、一方、受講者・講師共に充実する時間をもととする相互の努力に期待されます。指導部では密度の高い講習会にするため、申込み〆切時点の受講者数に対し、10対1の割合で講師を委嘱し、諸準備を進めることにしておりますから、申し込んだにも係わらず無断欠席されることは、経費の無駄が生じることにも、講師を意味なく拘束することになり、改める必要があります。ついては、今後の講習会には「申し込んだら必ず出席する」「欠席の時は七日前までに必ず連絡する」をお願いいたします。

おめでとよう  
ございます。

平成6年度 中央審査合格者

七段 明間 勲 (取手)

市毛 道子 (水戸)

六段 海老根芳江 (那珂湊)

塩津多恵子 (水戸)

練士 枝並 正容 (神栖)

須田 勝 (石岡)

横田 和夫 (取手)

今村 好男 (茨大教職員)

助川 末廣 (土浦)

吉田 智 (石岡)

荻沼 信子 (那珂湊)

青柳とし子 (下館)

高木 勉 (藤代)

平成7年度 中央審査合格者

七段 橋本 真也 (原研東海)

六段 吉田 智 (石岡)

手塚 栄 (ひたちなか)

道行 翼 (ひたちなか)

練士 綱川 久子 (友部)

阿部 政記 (友部)

高橋 平吉 (神栖)

木村喜久雄 (東海)

山口 みち (友部)

庄司 幸夫 (下館)

浜野 昇 (原研東海)

川又 正昭 (茨大教職員)

森 昭夫 (石岡)

早 喜進 (土浦)

平成6年度 県外競技入賞者

(一般)

第43回住吉大社奉納全国遠の大会

団体 大学の部

優勝 筑波大学 (佐山 秀夫)

藤本 秀夫・北村 惣吾

3位 筑波大学 (松下 文男)

野沢 力・青木 良憲

個人 大学の部

2位 藤本 秀夫 (筑波大学)

4位 北村 惣吾 (筑波大学)

第31回全日本女子弓道大会

称号者の部

2位 綱川 久子 (友部)

4位 廣水千加代 (友部)

第42回全日本学生選手権大会

女子個人の部

4位 荻原佐知子 (筑波大学)

第25回全日本学生遠的選手権大会

女子の部

4位 鶴原 陽子 (筑波大学)

第7回官公庁弓道大会

優勝 東海村役場 (相巢 博之)

加藤木 保・関 一弘

橋本 昌明・遠藤 弘之

川又 寿光

第35回関東地域選抜選手権大会

称号者の部

優勝及び技能賞 久保田 清

(藤代)

第45回全日本選手権大会

3位及び最高得点賞

久保田 清 (藤代)

第42回全日本実業団大会

産業別戦

優勝 日立電線 (平戸幹四郎)

村山 久行・吉田 均

弓野 良一・園部 勝浩

奈良 厚志・柳橋 徳彦

2位 東海村役場 (黒羽根成子)

遠藤 弘之・相巢 博之

橋本 昌明・関 一弘

加藤木 保・高野 則子

個人男子

2位 相巢 博之 (東海村役場)

明治神宮奉納者全国弓道大会

有段者の部

2位 永吉 努 (八郷)

称号者の部

4位 張替 謙一 (三和)

第43回全国青年大会

団体の部

優勝 新治郡 (八郷)

(足立 喜次・永吉 努)

堤 仁一・舟橋 典雄

個人男子

3位 舟橋 典雄 (八郷)

(高体連)

第38回関東高校弓道大会

女子団体

2位 下妻一高 (秋田 泰子)

神郡 一代・山野 智子

2位 大森 功志 (高萩高)

3位 服部 良 (境高)

女子団体

技能優秀 日立二高

(関 佐哉子・関 千春)

渡辺 陽子

男子個人

技能優秀 矢口 裕一 (石岡商)

女子個人

技能優秀 渡辺 陽子 (日立二)

第49回団体関東ブロック大会

少年女子茨城県

近の1位及び遠的4位 総合1位

館 恵子 (石岡商)

中軍 千絵 (日立商)

中山小白合 (石岡商)

第13回関東高校選抜個人選手権大会

男子個人

6位 津田 康徳 (水城高)

5位 加藤 有希 (三和)

(中体連)

第5回関東地域中学校大会

女子団体

2位 勝田一中 (田山 恵子)

和田 裕美・田山 浩子

女子個人

3位 和田 裕美 (勝田一中)

4位 川野 敦子 (清真学園中)

第21回中学生全国通信弓道大会

男子個人

3位 大日向 隆 (東海南中)

(理事長)

平成7年度 県外競技入賞者

(一般)

第44回住吉大社奉納全国遠の大会

団体 大学の部

3位 筑波大学(高山 淳)

中島 康裕・溝部 浩章

個人 大学の部

4位 原嶋 理江(筑波大学)

第88回明治神宮奉納遠の大会

学生

2位 中川 裕恵(筑波大学)

一般

4位 松尾 牧則(清真学園)

第33回関東教職員大会

団体男子

優勝 茨城県(荻原 裕一)

前野 秀明・栗原 博明

第26回全日本教職員選手権大会

団体女子

2位 茨城県(大金喜代子)

高野 順子・佐川 裕子

個人女子

優勝 高野 順子(佐和高校)

第43回全日本学生選手権大会

団体

3位 筑波大学(大塩 勲至)

佐山 秀夫・小柳 正道

松下 文雄・北村 惣吾

第26回全日本学生遠的選手権大会

女子の部

3位 中川 裕恵(筑波大学)

第46回全日本選手権大会

3位及び最高得点賞

張替 謙一(三和)

第50回国民体育大会

成年女子1部

遠的7位 総合8位

監督 市毛 道子(市毛弓具店)

選手 石井 幸子(伊勢甚)

大内 美子(日製日立)

磯野 光代(日本生命)

第44回全国青年大会

団体の部

4位 茨城県(土浦)

(関) 英一・高梨 嘉隆

遠藤 英樹

(高体連)

第39回関東高校弓道大会

女子団体

3位 日立商高(遠藤 妙子)

菊池由起子・青木久美子

個人男子

4位 古渡 邦彦(石岡商高)

個人女子

4位 岩間恵美子(高校高)

(中体連)

第22回全国中学生通信弓道大会

個人女子

2位 国井千恵子(清真学園中)

平成6年度収支決算書

【収入の部】

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	5,504,044	5,504,044
会費	4,523,000	4,565,000
審査収入	3,970,000	2,781,455
助成金	1,508,000	2,260,170
雑収入	100,000	133,286
計	15,605,044	15,243,955

【支出の部】

項目	予算額	決算額
会議費	940,000	454,374
大会運営費	626,000	527,163
褒賞費	445,000	434,616
諸謝金	1,834,000	1,906,936
消耗品費	580,000	204,884
印刷費	996,000	654,892
通信費	608,000	521,935
分担金	388,000	434,000
大会参加費	1,095,000	831,000
選手強化費	1,548,000	2,353,336
助成金	779,000	799,000
雑費	1,437,000	798,214
予備費	4,329,044	0
計	15,605,044	9,920,350

収入15,243,955-支出9,920,350=5,323,605(翌年度へ繰越)

平成7年度収支決算書

【収入の部】

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	5,323,605	5,323,605
会費	4,526,000	4,441,000
審査収入	3,008,000	3,184,656
助成金	1,688,000	3,836,620
雑収入	100,000	75,175
計	14,645,605	16,861,056

【支出の部】

項目	予算額	決算額
会議費	899,000	496,711
大会運営費	567,000	439,491
褒賞費	447,000	430,992
諸謝金	1,777,000	1,667,528
消耗品費	665,000	712,460
印刷費	713,000	354,447
通信費	613,000	491,261
分担金	494,000	459,000
大会参加費	1,003,000	755,000
選手強化費	1,718,000	2,557,000
助成金	669,000	709,000
雑費	775,000	863,408
積立金	1,638,000	1,202,500
予備費	2,667,605	2,613,379
計	14,645,605	13,752,177

収入16,861,056-支出13,752,177=3,108,879(翌年度へ繰越)

## 平成8年度予算書

## 【収入の部】

項目	予算額	平成7年度
前年度繰越金	3,108,879	5,323,605
会費	4,516,000	4,526,000
審査収入	2,949,000	3,008,000
助成金	2,379,000	1,688,000
雑収入	80,000	100,000
計	13,032,879	14,645,605



## 【支出の部】

項目	予算額	平成7年度
会議費	1,045,000	899,000
大会運営費	588,000	567,000
褒賞費	454,000	447,000
諸謝金	1,783,000	1,777,000
消耗品費	775,000	665,000
印刷費	750,000	713,000
通信費	602,000	613,000
分担金	499,000	494,000
大会参加費	1,015,000	1,003,000
選手強化費	2,525,000	1,718,000
助成金	689,000	669,000
雑費	670,000	775,000
積立金	1,219,000	1,638,000
予備費	418,879	2,667,605
計	13,032,879	14,645,605

## 平成7年度第19回中野杯収支決算書

## 【収入の部】

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	4,507	4,507
預金利息	140,000	140,508
雑収入	325,000	320,000
計	469,507	465,015

## 【支出の部】

項目	予算額	決算額
会議費	10,000	0
大会運営費	60,000	67,900
褒賞費	370,000	370,153
印刷費	20,000	22,660
事務費	5,000	1,600
予備費	4,507	0
計	469,507	462,313

収入 465,015 - 支出 462,313 = 2,702... 残金は次年度へ繰越  
中野杯基金 7,020,000 は定期預金

## 【平成6年度審査結果一覧表】

段数	受審者数	合格者数	合格率(%)
級	497	493	99.19
初段	605	498	82.31
二段	356	311	87.35
三段	137	38	27.73
四段	149	33	22.14
五段	92	12	13.04
計	1,836	1,385	75.43

## 平成8年度第20回中野杯収支予算書

## 【収入の部】

項目	予算額	平成7年度
前年度繰越金	2,702	4,507
預金利息	49,000	140,000
雑収入	720,000	325,000
計	771,702	469,507

## 【支出の部】

項目	予算額	平成7年度
会議費	0	10,000
大会運営費	68,000	60,000
褒賞費	673,000	370,000
印刷費	23,000	20,000
事務費	5,000	5,000
予備費	2,702	4,507
計	771,702	469,507

## 【平成7年度審査結果一覧表】

段数	受審者数	合格者数	合格率(%)
級	451	451	100.00
初段	583	494	84.73
二段	329	278	84.49
三段	187	59	31.55
四段	103	21	20.38
五段	82	15	18.29
計	1,735	1,318	75.96



茨城弓道史年表(5)

昭和30年

小野崎紀男

昭和29年

3月2日	「高校体連会報」(茨城県高等学校体育連盟)創刊	9月12日	地方弓道大会	1月2日	鹿島高校弓道クラブ初射会
3月20日	笠間稲荷弓道会射会	9月17日	第15回日立多賀弓道振興会射会	2月6日	第17回日立多賀弓道振興会射会
3月21日	第12回県弓道連弓道大会兼第9回国民体育大会県予選	9月17日	小川町弓道研究会道場開き兼県南地方弓道大会	4月6日	笠間稲荷弓道場落成
4月4日	笠間弓道会観桜射会	9月23日	茨城県弓道連盟総会	4月17日	県弓連春季審査会
4月25日	第13回日立多賀弓道振興会弓道大会	10月17日	第43回県弓道連秋季弓道大会	4月29日	鹿島神宮弓道大会
5月5日	那珂湊多賀太田体育大会	10月24日	県弓道審査会	5月8日	第18回日立多賀弓道振興会射会
5月16日	磯原弓道倶楽部春季大会	10月24日	石岡市民弓道大会	5月8日	第1回大洗つづじ祭射会
5月23日	大津常北武道振興会武道大会	11月3日	久慈町民体育祭弓道大会	5月15日	茨城町合併祝賀弓道大会
5月30日	日製水戸工場弓道場改築記念射会	11月3日	笠間稲荷社流鏑馬神事	5月30日	鹿島神宮御田植祭流鏑馬神事
6月6日	第14回日立多賀弓道振興会射会	11月7日	勝田市制施行祝賀弓道大会	6月5日	第4回常北武道大会
6月13日	日立市長杯弓道選手権大会	11月14日	第16回日立多賀弓道振興会射会	7月17日	日本鉱業山神祭弓道大会
8月8日	第3回那珂湊納涼弓道大会	11月16日	広田三郎平没(72)	8月7日	県民総体日立地区弓道大会
8月15日	保内郷柔剣弓道大会	11月21日	水戸市民体育大会弓道大会	8月14日	県民総体常陸太田市大会
9月1~5日	第5回弓道夏季大学を開催	11月23日	第4回県勤労者弓道選手権大会	8月18日	第3回県民体育祭鹿島郡大会
9月12日	県民体育祭石岡土浦新治郡	11月28日	磯原町文化祭秋季弓道大会	9月4日	第9回県民体育祭地方大会兼第11回高秋市民体育祭
		12月5日	第4回勝田市長杯争奪五十射会	9月11日	麻生町弓道大会

編集後記

今回、「弓道いばらき」を久し振りに皆様のお手元にお届けすることができました。

広報実務者の二名は初めての仕事であり、不安と生来のなまけ癖も手伝って、前任者の引継ぎ、資料の収集等に時間をかけすぎてしまいました。

今年度、県弓連役員の方々の異動等があり、新しく名誉会長にられた矢吹先生はじめ、新たな役員の方々の玉稿をいただき記載させていただきました。

この中で弓道人口の減少について多く述べられていることが強く印象付けられます。

世間には弓道にそこがれている人達も多く居ると思っていますが、そのキックも持たず、弓道との接点がないのが現状かも知れません。

特に現役で仕事をしている指導者層の多くの皆さんは時間的制約もあり、定期的な時間を割くのは困難であることと思います。指導者、受講者、道場の時間を調整し、弓道教室を続けられている皆様には敬意を表したいと思います。

次号では各地域の弓道教室の開催状況

況の現状をお聞きし、会員のみなさんが、弓道に興味を持つ人への紹介の一助にしていたらと考えると喜んでおります。改めて各地区の弓道教室の方へは広報通信員をおしてお願い致しますのでその際はよろしくご協力下さい。

また、本広報誌は皆様の広報誌です。企画のアイデア等ありましたらぜひ御連絡下さい。

私達も一緒に考えていきたいと存じます。

(鹿山 那珂郡東海村南台八の二)

編集委員

編集長

- 宮崎 康美
- 竹下 孝雄
- 梶山 博正
- 増田 英一
- 東北 岡部 秀治
- 日立 浅井 敏久
- 水戸 手塚 栄
- 石岡 森 昭夫
- 鹿行 高橋 平吉
- 上浦 星 喜進
- 県西 中嶋 鉄郎
- 県南 安藤 明子
- 大学 塚本 重毅
- 高体連 前野 秀明
- 中体連 佐久間和彰